

# MORIOKA YMCA NEWS

## 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



編集発行人： 濱塚有史 発行所： 特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1

TEL 019 (623) 1575 e-mail: moriokaymca@k9.dion.ne.jp URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

## 2008年7月号 キャンプ特集号



### 夏のキャンプ

盛岡YMCA 所長 濱塚有史

動物学者のローレンツは、次のように言っている。「卵からかえるという危険な作業を終えたばかりの1羽のガンのヒナから引き出せる反応は、一つしかない。ヒナの上にかがみこんでガンの声域で二言、三言呼んでやると、ヒナはぐらぐらとすわらない頭を持ち上げ、首すじをのばしたあいさつをよこす。何が出来るよりも前に、小さなガンは、自分をとりまく仲間に向ける、あいさつを送るのである。」

なにもできない生まれたばかりの小さなガンの一番最初の大きな仕事はあいさつだったのだ。ガンでさえそうなのだから、人間にとってあいさつは、どれほど大切なことだろう。

もうすぐキャンプがはじまる、子どもたち、とくに高学年

くらいになってくるとあいさつが苦手なようだ。テントから出てきた子どもに「おはよう」と声をかけるとポソッと「おはよ…」時には完全に無視されたりすることもある。それでもリーダー、スタッフ一同めげずにあいさつを繰り返していると、3日目の朝からは、向こうから笑顔で声をかけてくれたりする。

キャンプは生活である。普段、家族と一緒に生活から初めて会う人達と寝食をともにすることから様々な気づきが本人の中で起こってくる。別にわれわれが声をかけ続けたから子どもが変わるわけではない。本来子ども自身が生得的に持っているあいさつするという人間、いや生物の本質的なものにキャンプの生活をとおして子どもたち自身が自らの力で気づいていくのだと思う。

# Yの夏は大きい!

リーダーから、リーダーOGから、メンバーOGから

YMCAは、1920年に大隈YMCAが日本で初めての教育的組織キャンプを実施するなど、キャンプの分野でもパイオニアの役割を果たしてきました。YMCAキャンプの大きな特徴は、大学生ボランティアリーダーの存在です。4から8名ぐらいの小集団(グループ)に1、2名の割合で大学生ボランティアリーダーと一緒に生活をしていきます。

このボランティアリーダーは、普段からYMCAの諸活動(サッカースクール、水泳教室、野外活動、学童保育)にボランティアとして関わっているリーダーで、夏のキャンプに向けて「救急法」「食中毒防止」「子どもの理解」「YMCA理解」「安全理解」などの様々なトレーニングを受けて参加します。いままで、YMCAの夏やってきてくれた元リーダー、メンバー、そして現役リーダーからキャンプについてそれぞれの思いを語ってもらいました。

## 異次元ワールドへの旅!?

わたしがキャンプへ初めて参加したのは、4年前の海キャンでした。盛岡から遠い遠い気仙沼市の大島へ。バスに乗って船に乗って...、一体どんな4日間になるのだろうと子どもたちと同じようにドキドキしていたのを、今でも覚えています。でも大島に着くと、ドキドキなんかしている暇はないほど、楽しいことがいっぱい!夢中になって子どもたちと遊びました。鬼ごっこをして走り回るときもあれば、浜辺の砂に埋められたこともありました。海を眺めてのんびりしたときもありました。そうして、あっという間に4日間が過ぎ、盛岡への帰路に...。「ああ、終わっちゃったなあ。」とちょっぴりさびしさを感じながら、子どもたちとお別れをしました。帰りはとってもさびしかったけれど、心の中には山盛りいっぱいの思い出がありました。

キャンプから帰ってきてからは「あれもしたな、これもしたな」とたくさんの思い出を頭の中に描きました。そして、最後にいつも感じるのは「まるでどこか違う世界にも行ってみたい」ということでした。キャンプに行っていた数日間だけくっきりと特別な記憶として残っていて、思い出すだけで楽しい気持ちにさせてくれたのです。

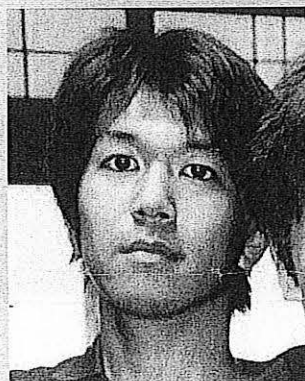
そう感じたのはきっと、その数日間を思いっきり楽しんで過ごしたからなのだと思います。子どもたちも、子ども同士のかかわりやリーダーとのかかわり、自然とのかかわりの中から様々なことを見つけ、感じ、学んでいたことでしょう。非日常的な生活であるキャンプ、それはわたしにとってまるで別の世界、異次元ワールドへの旅のよう。みなさんも、異次元ワールドに行ってみませんか。

仙台市立折立小学校 教諭 相澤 香理



学生時代は、アフロリーダーと言われて子どもたちの人気者。現在は、仙台市で小学校の先生をしています。写真は、アフロリーダーの初めてのキャンプに参加した時。

## キャンプと私ー「キャンプの魔法」体験ー



楽太郎リーダーとして活躍。3年前には、スリランカの津波被災地支援のボランティアとして日本YMCA同盟から派遣されて子どもたちのレクリエーション活動を行ってきた。幼稚園のころからYMCAの活動に参加してきた、ミスターキャンプ。現在は、ドクターを目指して急がしい毎日。

「いよいよ今年も夏がやってくる!」

梅雨が明け、気温がぐんぐん上がってくるとそんな気持ちと共に何か気持ちがわくわくしてきます。そのわくわくの理由は...。「キャンプ」です!私は、メンバーとしてそしてリーダーとしてYMCAのキャンプに参加してきました。今回は、キャンプの楽しさを少しでも伝えることができたらいいと思い、思いついたままに書いてみたいと思います。

キャンプの楽しさ、それは一言で言うと「キャンプの魔法」だと思います。

キャンプは当たり前ですが、普段のお家や学校の環境とは全く違う環境です。その全く違う環境が「キャンプの魔法」を起こしてくれます!

### 「キャンプの魔法」その1「できなかったことができてしまう!」

キャンプでは、お家で家族の人がやってくれていたことを自分でまたはお友達と一緒にやらなければなりません。例えば、その代表の1つが「ご飯作り」です。もちろん、毎年多くの参加者が初めて、包丁を使ったり、火でご飯を炊いたり、使った食器を洗ったりします。始めはできなかった子ども最終日には一人でできてしまう。そして自分が作ったご飯だから嫌いな食べ物も「食べてみようかな」という気になり、案外食べてみると食わず嫌いだったんだと食べれてしまう。

### 「キャンプの魔法」その2「多くのチャンピオンの誕生!」

キャンプでは、毎回多くのチャンピオンが誕生しています。「鍋洗いチャンピオン」「一発芸チャンピオン」「替え歌チャンピオン」「蟹見つけチャンピオン」「石切チャンピオン」など...。参加者一人一人が何かしらのチャンピオンになってしまうのです。普段の生活では何とも思わなかったことに気づき、何か楽しくなってしまう。

### 「キャンプの魔法」その3「帰りたくない!」

初日は少し不安だった気持ちも二日目の朝を迎えると「不安がわくわくに変ってしまいます」2泊3日、3泊4日の中では、もちろんお友達との笑い、涙多くの体験があります。行きのバスでは喋れなかったお友達と帰りのバスでは笑いながら仲良くという場面もちらほら!参加者一人ひとりが「キャンプの魔法」にかかり大きな思い出を作って普段の生活へと戻っていきます。

今回は、キャンプがなぜ楽しいんだろう!と改めて思い返したときに思いついた「キャンプの魔法」を書いてみました。でもここに挙げた「キャンプの魔法」体験はほんの一部です。キャンプに参加したことのあるお友達、リーダーやスタッフにもそれぞれ「キャンプの魔法」体験があるはず。ぜひ聞いてみてください。

(佐藤 翔)





# 思い出がたくさん詰まった宝箱

私は“キャンプ”と聞くだけでワクワクしてしまいます。これは小学生の頃も大学生になった今も全く変わりません。なぜなら、キャンプは自然の中で普段とは違った特別な体験ができるからです。思いっきり走り回ったり、外でご飯を作ったり、自分でテントを立てたり…いつもは家でお手伝いをしない私も、この時ばかりは楽しくて仕方なかったのを覚えています。まさにキャンプ☆マジック!! さらに、初めて会ったお友だちとも自然と仲良くなれるのが、キャンプの魅力だと思います。「お友だちとこんなことして遊んだ」という思い出は、本当に尽きることがないです。

リーダーになってから10回以上はキャンプに行っていますが、どのキャンプも雰囲気違っていつも新鮮で、楽しいこと、おもしろいこと、びっくりすることがいっぱいあります。私は、子どもたちと思いっきりはしゃいだり、探検や冒険をしたり、一緒に火炊きやご飯の準備をしたり、寝る前に秘密のおしゃべりをするなどいつも楽しみにしています。どれもキャンプならではの楽しみですね。また、キャンプには“発見”が多いなあと思います。初めての体験をすること、知らなかった虫や草花を見つけること、新しく遊びを考えることなど、いろいろなことに興味を持てるきっかけがたくさんあるのがキャンプだと思います。キャンプ中によく感じるのですが、子どもたちの表情はみんなキラキラしているのも印象的です。いつもとは違った楽しみがあるのはもちろん、キャンプというだけでいつもはできないことができたり、楽しみが倍増したりするのかなあ、なんて考えていました。これもキャンプ☆マジックですね。

本当にキャンプは私の中で特別な存在だと改めて感じました。最後になりましたが、自分にとってのキャンプを一言で表したいと思います。私にとってのキャンプとは、楽しい思い出がたくさん詰まった宝箱のようなものでもあり、考えるだけでワクワクして、自然と笑顔になってしまう元気の素でもあります!

文責：岩手県立大学 4年 田口 温子 (リス)

去年は、海のキャンプのメインリーダー。盛岡Yの現役女性リーダーの中で、キャンプといったらこの人。就職試験で多忙を極める中、やっぱり彼女はやってきます。



## さあ、今年も真っ黒だ!!!

いろいろなことがあること。そう言ってしまうと、そうとしか言えないのですが、キャンプはやっぱそれに限る気がします。火をつけたり、料理したり、荷物を整理したりして普段はやらないだろうことを自分の手でやります。普段は遊んだら帰りますが、帰らないで夜まで遊びます。普段は怒られるけどキャンプ中なら少し夜更かしても怒られません。家のトイレは怖くないけど、キャンプ場の夜のトイレはなんだか不気味で行くのにも勇気がいられます。キャンプに参加するだけでこれだけ日常と離れるのはキャンプならではの感覚だと思います。

でもYMCAのキャンプとしていけば、それはもっと多くなるんじゃないかと思えます。普段の学校の友達じゃないメンバーの子が下は幼稚園から中学生までいて、普段はいない大学生のリーダーっていう変な人たちがいて、他にないだろうと思える関わりがたくさんあるように思えます。関わり種類にしてもたくさんあるなと思います。新しい出会い、最初の言葉、一緒に遊ぶ、名前と呼ぶようになる、一緒にテントの子たちで他のテントの子は面白くなくても笑えるようになるなどあります。こういう関わり以外にも、遊ぶことで何かしら取り合ったり、言いあったりなどというぶつかり合いになるような関わりもあると思います。もちろん、こういった関わりが普段の日常の中になんかいないということはないと思います。しかしキャンプほど、このような関わりが目白押しに押し寄せる生活もないように思えます。それがキャンプの力であり、面白さなのだと思います。

いろいろなことを書いてきましたが、ほんののことを言うと、いろんな要素が詰まりすぎてわからないというのが本音かもしれません。ただ、キャンプ中に起こる様々なことは一瞬です。またそのキャンプでしか起こらないことだと思います。だからキャンプはその一度きりなのだと思います。であればこそ、一度一度の「キャンプ」を大切にしていきたいと思えますし、一瞬一瞬を見逃さないようにしていきたいなと思います。そうすることできっと「キャンプ」はもっともっと楽しいものになるのではないかと思っています。

そんなキャンプが今夏も始まります。さあ、今年も真っ黒だ!!!



参加したプログラムは数知れず。キャンプのある所には葱がいる。いつしか人は、「困った時には葱にたのめ」というようになった。「ナ」とかする男! 葱は、今年もキャンプにやってくる。

岩手県立大学4年生 末廣 光輝 (葱)

### 盛岡YMCA 夏のプログラム

#### ～キャンプ～

#### ★わんぱくキャンプ

7月20日～21日 (1泊2日)

場所：都南つどの森

参加費：14,000円

#### ★サッカーキャンプ

8月2日～5日 (3泊4日)

場所：陸前高田ユースホテル

参加費：39,000円

#### ★海の生活体験キャンプ

8月7日～10日 (3泊4日)

場所：国民休暇村気仙沼大島

参加費：39,000円

#### ★森のキャンプ

8月7日～10日 (3泊4日)

場所：岩手県八幡平市愛隣荘

参加費：30,000円

#### ～サマースクール～

#### ★第1クール

7月28日～8月1日 (締切ました。)

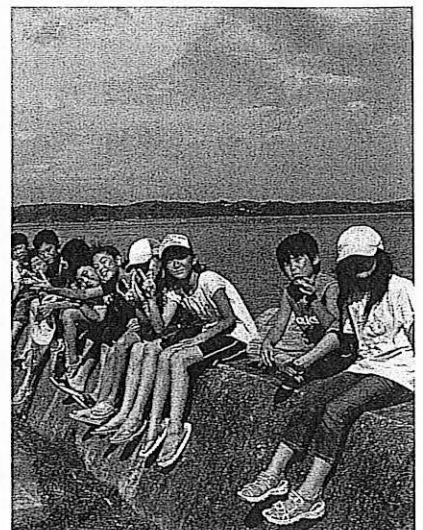
#### ★第2クール

8月4日～8月8日

場所：日本基督教団内丸教会会堂

参加費：13,000円

※定員になり次第締め切ります。お早めにお申し込み下さい。



2007年海の生活体験キャンプ

# 情報コーナー

## 7月の予定

- ★7月15日(火) 滝沢サッカー1期終了
- ★7月16日(水) 篠木サッカー1期終了
- ★7月16日(水) 水泳教室1期終了
- ★7月16日(水) 本町英語1期終了
- ★7月17日(木) 松園サッカー1期終了
- ★7月19日(土) 本町サッカー1期終了
- ★7月20日(日)21日(月) わんぱくキャンプ(都南つどの森)
- ★7月27日(日)

- キャンプ説明会②(アイーナ団体活動室③)
- ★7月28日(月) 土淵サッカー1期終了
- ★7月28日～8月1日 サマースクール(第1クール)(日本基督教団内丸教会)

## 8月の予定

- ★8月2日(土)～5日(火) サッカーキャンプ(陸前高田ユースホテル)
- ★8月4日(月)～8日(金) サマースクール第2クール(日本基督教団内丸教会)
- ★8月7日(木)

- もりおかワイズ\*メンズクラブ\*8月例会(JARAN-JARAN)
- ★8月7日(木)～10(日) 海の生活体験キャンプ(国民休暇村気仙沼大島)
- ★8月7日(木)～10(日) 森のキャンプ(八幡平市愛隣荘)
- ★8月11日(月)～15(金) 盛岡YMCA休館

- ★8月16日(土) 学童保育「ぶらいむタイム」2期開校。
- ★8月18日(月) 土淵サッカー2期開講

- ★8月19日(火) 滝沢サッカー2期開講
- ★8月20日(水) 篠木サッカー2期開講
- ★8月20日(水) 本町英語2期開講
- ★8月20日(水) 水泳教室2期開講
- ★8月21日(木) 松園サッカー2期開講
- ★8月23日(土) 本町サッカー2期開講
- ★8月31日(日) アトペンチャークラブ\*8月活動「小川で水遊び」(矢巾町立自然公園)

## リーダー お勧めの本③

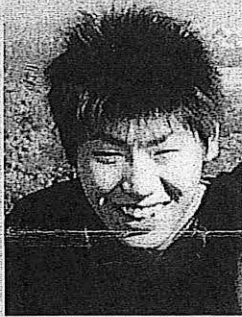


### 「ちびっこ吸血鬼」

著者：アンゲラ ソンマー・ボーテンブルグ  
出版社：くもん出版

今回、私が紹介する本は「ちびっこ吸血鬼」です。この本は本が嫌いだった私が好きになった数少ない本の一つです。図書館で手にとり、少し読んでみたところ、その内容や絵が気に入ってしまいました。

内容を少し紹介します。吸血鬼好きの男の子アントンが留守番をしていると、ちびっこ吸血鬼のリュティガーが偶然入ってきて、その日からアントンの冒険が始まりました！アントンは吸血鬼の住んでいる墓地に行ったり、他の吸血鬼に会ったり、吸血鬼を信じない両親に吸血鬼を紹介したり…さまざまな出来事を体験します。この本のなかで私が特に面白いと感じた所はアントンと両親、アントンとリュティガーや他の吸血鬼との会話のやり取りです。アントンは両親にリュティガーのことを話しても信じてもらえない。しかし、それを楽しんでいるアントンの心境や、吸血鬼との「ヤバイ！食われるんじゃないか！」と思うようなドキドキする会話のやり取りは読み応え満点！！



皆さんには会ってみたい人はいますか？私はドラゴンに会ってみたいと思いますが、本物のドラゴンにあったら逃げ出すと思います。アントンは吸血鬼に会った時逃げ出さず、ちびっこ吸血鬼と仲のいい友達になりました。なんでアントンは逃げ出さなかったんでしょうね？きっとアントンには勇気・好奇心があったんだと思います。何かをする時はきっと、ほんの少しでも勇気が必要です。友達と話したり、どこかに出かけたり、知らない人と話したり、授業中に発言したり…一歩踏み出そうとする時、勇気が必要な場面はたくさんあると思います。その勇気はどこからくるんでしょうね？自分から？友達から？両親から？勇気は色んなところからくるんだと思います。皆さんもこれからほんの少しの勇気を胸に秘めて日々の生活を送って下さいね☆

文責：つちのこ(岩手大学 教育学研究科1年 小原 光史)

感謝(2008年度)  
順不同・敬称略  
●維持会員  
鶴丹谷三千代、大関靖二、濱塚秋二、濱塚れい子、盛岡チャペル、内海和子、今野健男、今野聖子、菊池崇江、山内光介



申し込み方法は、YMCAにお問い合わせ下さい。

TEL 019-623-1575

## ～表紙の写真から～

昨年の海のキャンプのヒトこま。キャンプ場のかまどの上に登ると太平洋が見渡せる。キャンプ初参加のビーチリーダーは、少々緊張気味。でも、子どもたちと一緒に海に向かってあまり品の良くない言葉を叫んでいるといつしかこの表情。キャンプはリーダーも変わっていきます。ビーチリーダー2年目の夏が始まります。



(濱)